

研究所ニュース No.101

# りべらしおん

「りべらしおん」は、フランス語で「解放」という意味です。

発行：公益社団法人 福岡県人権研究所

〒812-0046 福岡市博多区吉塚本町13-50 福岡県吉塚合同庁舎4階 TEL 092-645-0388  
FAX 092-645-0387 Mail:info@f-jinken.com URL:<http://www.f-jinken.com/>

## 次の時代へ向けて ～ 史資料活用・住民意識調査・出版事業の充実を ～

公益社団法人福岡県人権研究所理事長 新谷 恭明

理事長として2期目を迎えることになります。職場は北九州市であり、実務は原田博治所長、谷口研二事務長の采配で事務局の皆様のおかげでつながらなく運営されているのはまことにありがとうございます。

今年はいわゆる新型コロナ感染症対策により、会合を開くこともままならず、総会も書面で行わざるを得なかつたことはたいへん残念なことでした。理事会もこの間開催できず、編集委員会も集まって議論することはひかえている状態です。新しい役員人事もとりあえず大きな異動をひかえ、組織の安定を第一に現状を凌いでいる状態です。そういう中で新執行体制も決まり 7月 26 日(日)には、2020 年度第2回執行理事会を開きました。

コロナウィルスの地球的流行は新たな人権問題をあぶり出しています。そうしたら、7月 14 日の西日本新聞に『リベラシオン』177号に掲載された田中美帆さんの書評のことが取り上げられていました(p4 に転載)。「タイムリーな書評」という評価をいただいたのですが、『リベラシオン』が思わぬところで読まれていること、していくばくかの影響力を持っていることに気持ちの高ぶりを覚えました。と同時に歴史の蓄積の中から新しい問題解決の道筋が紡ぎ出されることを確信しま

した。

今、研究所がしなければならない任務に松本・井元史料の整理・保存という重大な課題があります。福岡の解放運動の偉大な先達の残した多くの史資料は福岡の、いや日本の解放運動の歴史の記憶なのです。記憶は保存したままでは風化します。偉人も顕彰しただけでは歴史の中に埋没します。解放運動の歩みを振り返り、確かめ、見直すことの中から新たな運動の方向が見えてくるのだと考えます。史資料の活用こそが新しい運動を生み出す原資なのだということができます。

ところで、ご承知のように福岡県人権研究所の経営は大きく補助金に依存しています。財政的な安定があつての公益活動です。

まずは会員の増加による会費収入の増加、委託事業の安定的確保、出版事業の黒字化などが当面の課題です。また、事業を担っていく人材の育成・確保も重要な問題です。会員の皆様の中に調査、統計の知識・技術、編集・出版の知見をお持ちの方には是非お力を貸してください。また、研究所の活動に参加してくださる方がお近くにいれば是非会員となることをおすすめください。そして、福岡県人権研究所に期待されている役割をまつとうしていきたいと思います。

## 2020年度新執行体制

2020年度役員、顧問 (\*印は執行理事)

(五十音順)

理事長	*新谷 恭明	理事	加藤 陽一	理事	*塚本 博和	理事	守田 義弘	顧問	組坂 繁之
副理事長	*園田 久子	理事	小正路 淑泰	理事	原田 憲正	理事	*森山 沾一	顧問	林 力
副理事長	*西尾 紀臣	理事	*関 儀久	理事	*原田 博治	理事	山田 明	監事	井上 健
理事	有光 洋	理事	*高田 美穂	理事	福永 謙二	理事	安河内 信子	監事	梶原 正実
理事	*井上 法久	理事	高松 美保子	理事	本村 隆幸			監事	豊福 明子

## 事務局

所長 原田 博治 事務長 谷口 研二 事務次長 迫本 幸二 事務局員 田中 美帆、峰 司郎、山口 正子

会員投稿

## ベトナム戦争は終わっていなかった!

～第14回 海外人権スタディツアーinベトナムに参加して～

理事 安河内 信子



(枯葉剤被害者協会訪問)

2019年12月26日、年末から新年を迎える準備で忙しい中、海外人権スタディツアーの参加メンバー16名はベトナムへ向かいました。

2019年度海外人権スタディツアー企画部会の部会長になりました。私は、企画部会の打合せで迷わずベトナム訪問を提案し、訪問先として決定しました。アジアの小国が超大国のアメリカに勝利したのですから。事前学習会や資料づくりを重ねる中で、「ベトナムで何があったのか、ベトナムで何を学ぶのか、ベトナム戦争反対を訴えてきた人たちの思いは?」

参加者それぞれが、「自分とベトナム戦争とは?」との思いをもって出発しました。

1965年、アメリカによる北爆が開始されて以来、メディアを通して伝えられるベトナム戦争の悲惨さに私たちは心を痛めています。当のアメリカからも「ベトナム戦争に反対」と声が上がっていました。そして、1975年4月、長く続いたベトナム戦争が「サイゴン陥落」によって終結したというニュースは、私たちに大きな喜びと安心を与えてくれました。

私事ですが、私は今回のベトナム訪問が5回目になります。初めて訪問した時、ベトナムの学校を訪問する機会を得ました。ベトナムの子どもたちと遊んだり、学習したりした時のことです。私たちが教室に入ると、子どもたちが

手拍子で「♪ベトナム・ホーチミン♪」と歌って迎えてくれました。その時、あの悲惨な戦争は終わったのだ、今は平和になったのだ、と嬉しく、また、ベトナム国民の勇敢な戦いを振り返り、感動で涙が出ました。それから数回ベトナムを訪れましたが、一度は戦跡をみたいものだと思っていました。そして、今回その機会を得ることができました。(注:訪問地については、ニュース「りべらしおん」No.98で高松美保子さんが報告しています。)

このスタディツアーの企画や学習会を進めていくうちに、私は、ベトナム戦争が終わっていないことに気づかされたのです。残留ダイオキシン、重度のしうがい児、出生前診断による中絶……。そこで、今回は「終わらないベトナム戦争」というツアーリ

名に決定しました。

私たちは、このツアーリーを通して、終わらない戦争の実態に出会い、また、被害者を支援する活動をしている組織の方々にも出会うことができました。

その中で分かったことは、国からの支援は少ない、アメリカからの保障は皆無、(近年、ダイオキシンの洗浄を始

めたということですが)人の命を平気で奪う残酷な戦争を決して許してはいけないことを改めて確認することができました。

終わりに、このベトナム戦争には日本も深くかかわってきたことを肝に銘じておきたいです。

海外人権スタディツアー企画部会の報告学習会を次の日程で

計画しています。  
どなたでもご参加ください。

海外人権スタディツアー企画部会  
ベトナムツアー報告学習会  
日時:9月26日(土) 14時～  
会場:福岡県人権啓発情報センター  
視聴覚研修室  
(TEL 092-584-1271)  
問合せ:092-645-0388

や偏見の解消をめざす政治運動のことであり、それらはすべてアイデンティティの「同質性」をもとにする民主主義に属するものである。

シティズンシップ・ポリティクスとは、あるアイデンティティをもった集団そのものの尊厳ではなく、平等なシティズンシップ(市民性)の尊厳を守る運動のことであり「市民」という個人の権利が重視され、自由主義に属するものである。”(報告者がインターネットで検索)

(1)アイデンティティ・ポリティクスとは、例えば、全国同和教育研究協議会『同和教育指針』(1958年)と福岡県同和教育研究協議会事務局『同和教育推進教員の任務内容』(1969年)の初期の同和教育がめざしたものがあらわである。

①差別を差別として鋭く感じとれる人間、差別からの解放を意欲し、みんなで力を合わせて解放への努力をおしまぬ人間、解放のために必要な学力、技術、さまざまな能力をじゅうぶんに身につけた人間を育てる。

②差別をはねのけ、差別を許さない人間の育成。

③差別の現実から深く学ぶ。

(2)シティズンシップ・ポリティクスについては、水平社宣言や日本国憲法、世界人権宣言にあるように、やはり基本的人権が尊重され、人権文化のあるまちづくりにしていくことが必要であり、そのことがウチ・ソトの関係の差別(私たちではないあの人たちという差別)をなくしていく。

ということでした。

講座に参加し、①正しい知識を身につけるこ

会員から 2020年7月19日(土)

2020年度第1回ココロンセミナーに参加して

テーマ 部落差別はなぜ起きるのか

～これからの同和問題～

講師: 公益社団法人福岡県人権研究所理事長

西南女学院大学教授 新谷恭明さん

報告 教育部会部会長: 稲所 賢一

2020年度7月19日(土)第1回ココロンセミナー「部落差別はなぜ起きるのか～これからの同和問題～」をテーマに本研究所理事長新谷恭明(西南女学院大学教授)さんを講師に開催されました。

講演は「I被差別民とは誰か II江戸時代の身分制度 III近代社会と部落差別 IV近代産業と被差別部落 Vこれからの同和問題」の5点からでしたが、ここでは「Vこれからの同和問題」に焦点化して記述します。

はじめに、2016年12月16日から施行された「部落差別の解消の推進に関する法律」について、「現在もなお部落差別は存在するとあるが、誰を差別しているのか 何処を差別しているかは何も触れていない。このことが部落差別の本質である。」と話されました。

「Vこれからの部落問題」では、アイデンティティ・ポリティクスとシティズンシップ・ポリティクスについて話されました。

“アイデンティティ・ポリティクスとは、社会的不利益を被っているアイデンティティ(帰属性)をもつ集団が結束して社会的地位の向上

との大切さや、部落差別の現実に深く学ぶこと 信しました。

がスタートである、②その継続が部落問題の科学的認識を深め高めていくことにつながるということ、③それは、子どもに寄り添い共に学び合うからこそ自分自身の変容に気づき、同和問題と向き合う立ち位置を問うことにもなる、と確

一人ひとりの人権が保障される地域社会の実現に向けて、不断の努力を行うことを忘れず教育活動に励んでいくことが大切であると考えさせられたセミナーでした。

## 事/務/局/日/誌/か/ら (2020.6.12~2020.8.18)

### 6月

- 14 土 九州地区部落解放史研究連絡協議会(熊本市)
- 16 火 第7回事務局会
- 23 火 第8回事務局会
- 27 土 第2回啓発部会(福智町)
- 30 火 第9回事務局会 福岡市企業同和問題推進協議会事務局長来局

### 7月

- 4 土 第1回教育部会(福岡市)
- 7 火 第10回事務局会
- 11 土 第11回部落史研究部会兼史・資料プロジェクト(古賀市)
- 14 火 第11回事務局会 第13回松本・井元研究会
- 18 土 第3回啓発部会／人権意識調査分析担当者会(福智町)
- 21 火 第12回事務局会
- 26 日 第2回執行理事会(吉塚合同庁舎ボランティアセンター)

### 8月

- 4 火 第13回事務局会
- 8 土 第2回教育部会(春日市)
- 13 水 事務局閉局～16日
- 18 火 第14回事務局会

※ 住民意識調査や実態調査等の受託事業に関する調整・事務、研究・研修や教育・啓発に関する相談業務、研修会の企画・運営、講師依頼への対応、補助金申請・報告や公益法人関係事務。関係機関・団体との連携・調整事務等については一部省略しています。(場所を示していないものは、研究所事務局で行っています。)

## <西日本新聞7月14日より転載>

## お／知／ら／せ

### チフスのメアリー

チフスのメアリーは「チフスのメアリー」で、1906年初版を紹介している。田中美帆著の物語で、森修著の「チフスのメアリー」(金田中美帆著)を紹介していた。実にタイムリーな書評である。要は110年ほど前、ニューヨーク一帯にチフスが流行った。その感染源が判明しない。調べていくと、アイルランドから移住したメアリー・マローンという女性が賄い婦として働いた家からクラスター感染が起つていった。されどもメアリーにチフスの症状は一切ないのである。つまり健康体なのである。だが人に感染させていなかった。だが人に感染させていた。それが「無症候性キャリア」、本人に自覚のない感染者である。排菌の多い



福岡県人権研究所  
機関誌リベラシオン  
177号で  
田中美帆

メアリーは「チフスのメアリー」と世間からさげすれ、長い間公衆衛生局から強制隔離閉鎖された。ここには公衆衛生と人権の問題も出てくる。メアリーも陰性と陽性の間を行き来している。コロナもまた治つたからと言って安心はできない。スーパー・ブレッダーは私かもしない。元過ぎればなんとやら、気のゆるみがない。マスク、手洗い、うがい、3密回避、ソーシャル・ディスタンス、この防衛の原点をゆめゆめお忘れなく。(中洲次郎)

### 2020年度啓発担当者のための人権講座

(日時と会場について)

日時：2021年2月9日(火)

会場：福岡市中央市民センター

(福岡市中央区赤坂2丁目5の8)

\*詳細は検討中

ハートフルフェスタ福岡2020(福岡市)とふれあいフェスタ2020(北九市)はコロナ感染症拡大防止のため中止となりました。

また、8月8日(土)に予定されていた「こんばんはⅡ」(中学ドキュメンタリー)上映会は延期となりました(延期日程詳細は未定)。